

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709558		
法人名	株式会社 和幸		
事業所名	グループホーム寿敬庵		
所在地	秋田県横手市十文字町腕越字山道端79-11		
自己評価作成日	平成31年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成31年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年に寿敬庵棟、平成18年に江洋館棟を設置しました。又、平成29年にはここで輪っこという地域密着型カフェをスタートしました。ここで輪っこを設立して1年が経ち、地域の人たちが集まり化学教室やハーバリウム体験等様々な事を行い地域の方とグループホーム利用者様が関わる機会が増えてきていると思います。又、ホーム前の畑にいる地域の方がホームへ訪ねてきて野菜をくださったり関わりも以前より増えてきています。このように、地域に溶け込んだグループホームを目指して日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さまざまな取り組みの中で利用者の笑顔を見出し、理念に基づくケアの実践に日々努力しています。共同生活の中で制限はあるものの、その人の思いを尊重し、これまでの暮らし方が継続できるよう支援しています。地域おこしの一環として行われた町の催しに参加し、神社の祭礼、敷地内に開設している地域サロンを通じて地域との関わりを深めながらホームとしての役割を模索し、地域の中に溶け込んで利用者へのより良い支援に繋げていけるよう努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度の目標である「私を見て！貴方の心に寄り添います。～笑顔あふれる明るいホーム～」という事業所理念を職員で考え作り、代表者と管理者・職員で理念を共有し実践に努めている。	利用者、職員共に笑顔で生活できることを目標にしています。年度末に実践状況を振り返り、利用者の生活支援に繋げていけるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事へ参加したり、運営推進会等に地域の方に参加して頂いたりし、地域の一員として交流を図っている。	敷地内に開設したサロンを地域の方や子ども達が自由に使えるように開放して地域との関わりを深め、また、畑を利用している方や祭り神輿がホームを訪れて利用者との交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議へ行政の方、地域住民代表の方、ご家族様に参加をお願いし、ホームでの活動内容をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、意見交換をしながらサービス向上ができる様なアドバイスを頂いたりしている。	状況報告をした上で意見や助言をいただき、運営に反映できるよう取り組んでいます。毎回違う地域の方がメンバーとして参加していただいております。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の担当者が市役所へ足を運び連携をとっている。又、運営推進会議の行政の方と情報共有・意見交換も行っている。	行政主催のイベントに参加する機会を得たり、ケア会議等で協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待委員会を定期的に関き、玄関の施錠をしない(夜間を除く)身体拘束をしないケアについて全ての職員が正しく理解できるように勉強会を開いている。又、身体拘束をしないケアにも取り組んでいる。	勉強会を通じて理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。疑問に思うことが生じた場合にはそのままにせず、解決に向けて対応を検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待委員会を定期的に関き、高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内での虐待が見過ごされない様注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在寿敬庵棟入居者様が日常生活自立支援事業を活用されている方がおり、活用前には職員同士で話し合い制度について理解・必要性を勉強する機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約をされる際に、質疑応答をしながら進めていき、納得をして頂いた時点での契約書にサイン、割り印して頂く様にしている。又、契約後に疑問点等がでた際にもしっかりと説明・理解して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見要望箱を設置したり、面会時ケアプラン説明をしている際に意見や要望を聞き、会議やケアカンファレンス、運営推進会議で話し合いをしている。又、家族アンケートを活用し相談や意見に対して即座に返答をしている。	報告書を送付し、こまめに連絡して家族との関係構築に努め、要望を引き出せるように取り組んでいます。設備の改善に繋げる等、利用者の要望にも応えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やケアカンファレンス等で意見や提案が出た際には、話し合った事を記録簿へ残し、代表者へ反映して頂ける様に伝えている。	職員間のコミュニケーションは良く、普段から活発に意見交換が行われ、日常的に訴えやすい環境にあります。利用者の要望等に対応を検討し、職員の意見は法人本部に伝えられて反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者・職員が緊張感や向上心が持てる様に自己評価シートを年1回行っている。そのシートも参考にしながら給与や賞与などもしっかり整備されてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアを通し、より良いサービスが提供できる様に代表者は、職場へ外部研修を進めたり内部研修でも学べる機会を設けレベルアップ出来るように整理している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH情報交換会や地域ケア会議へ参加する機会を設けている。又、人事ペ어링等も行い同業者同士の相互訪問で良い所や改善点等を指摘し合う事で質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際に、利用者様らしく生活が送れる様要望を聞き、コミュニケーションを図りながら安心できる様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事や利用者様の要望を理解し、家族様とも情報を共有しながら要望に沿えるように努めている。又、ケアプラン変更時にもご家族様からの要望等を聞き取りしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく中で、「お世話させて頂く」という気持ちを大切に、一人一人に合わせた支援が出来るように努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況や要望等には都度ご家族様に伝えている。又、2か月に1度お手紙にてホームでの様子や行事の写真等をお知らせし安心して頂ける様に努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への電話や外出・面会等を通じて、これまでの関係が途切れない様に支援している。	家族との外出や懐かしい場所に出かける等、本人にとって馴染みのある方と過ごす楽しみやそれぞれの思いを大切にできる環境づくりに努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の特性を理解して、トラブルにならない様環境づくりに配慮している。又、トラブルになってしまった場合には仲裁に入りお互いの意見を聞き、それを取り入れながら今後へと築ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約等が終了しても、電話での相談を行ったり、入院している場合はお見舞いへ出向いたりして困らない様フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様へ聞きとりし、昔の暮らしや自宅での生活等を把握すると共に、要望等をしっかり聞き入れ一人一人の意向に沿える様に努めている。	担当職員が密接に関わって本人の把握に努め、他の職員の気づきも活かし、日々の生活支援に繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に事前に聞いたり、入所時に基本情報シートを書いて頂き、その方の状況把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の情報や希望等を元に、自立と支援の必要な所の把握に努め、有意義に生活出来る様にしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報を元に、ケアカンファレンスで一人一人にどんな支援が必要なのかをしっかりと職員同士で意見を出し合い計画に反映させている。	カンファレンスには十分な時間を設け、現状に即した介護計画となるように担当職員を中心に意見を出し合って作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を通して、食事や排泄状況等を記録へ細かく残し、職員間での情報共有を必ず行い、ケアプランの見直し時等に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での外食や買い物・出張理髪・訪問歯科等を利用し、安全で豊かな暮らしを楽しめる様支援に努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は利用者様・ご家族様の希望を大切にし、時にご家族様の協力を得ながら納得のいく医療が受けられる様に支援している。又、かかりつけ薬局との関係も築きながら適切な医療を受けられる様に支援している。	入居前からの馴染みの医院で受診したいという希望があり、その思いを大切にそれぞれのかかりつけ医で継続受診しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、週に1度健康チェックに来て頂いている。その際に一人一人の状態を報告し、チェック後はアドバイスを頂いている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、定期的に面会する事で安心して入院・治療を受ける事が出来る様に努めている。又、病院とも相談・情報共有する事で早期に退院出来る様努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りを経験しており、終末期に向けた方針に関して、医師・訪問看護師・ご家族様と話し合いをしっかりと行い、方針も共有しチームで支援に取り組んでいる。	希望に応じた支援が行われており、ホームでの看取りには家族の協力も得られています。職員のメンタル教育も行われ、重度化や終末期に向けて体制を整えています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	利用者様の急変時に備えて、消防署主催の救命講習に全員参加して頂き、対応方法等を身につけている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を定期的に開催し、災害時の対応を全スタッフに周知している。又、避難訓練も行っている。季節や状況に応じて安全に通行できる避難経路の確保にも努めている。	近隣には高齢者が多く、避難訓練はホーム独自で行っています。冬季の避難通路等に課題はあるものの、除雪をこまめに行い、また、断水に備えて浴槽には水を入れていません。	さまざまな災害に備え、季節や時間帯等の条件に対応できるよう、避難方法を検証しながら訓練を積み重ねていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに十分に配慮し、その人に合った言葉遣いをする事を心がけ、危険行為等以外は否定せず傷つけない様支援している。部屋がわからずにいる方にはすぐに声かけし、個人のプライバシーを確保している。	その人に合った言葉遣いに心がけ、個々の状況に応じた対応に努めています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や飲み物等、「AとBどちらにしますか」と等選択できる言葉で自己決定出来る様に努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活リズムに合わせ、やりたい事等の希望に沿った支援を行う様にしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やマニキュア・髪留めを使用しおしゃれを楽しんでいる。又、着たい服と一緒に選んだり床屋へ出かけたり等して整えて頂いている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節食や行事食を提供し、食事を楽しんで頂ける様努めている。お手伝いの出来る方には、野菜の皮むき・食器拭き等、職員と一緒にいき、出来る事をして頂く事で利用者様の自信に繋がるように支援している。	職員が見守る中で食事をしており、食の進まない利用者には声かけしながら状態観察して職員間で対応を検討しています。外食は利用者の楽しみの一つであり、笑顔が見られるのも職員の励みになっています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一回一回の食事量や水分量を記録し、栄養管理に取り組んでいる。食事時、摂取量が少ない時には、10時、15時の水分補給時の時間にも間食して頂いている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯の手入れは出来る限り自分で行って頂くが、磨き残し等あれば職員がお手伝いしている。食残渣がない様、うがいをしっかりと行って頂き、下のケアも行い口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、タイミングを考えながらトイレ誘導等をしている。又、尿パット使用の方もなるべく布パンツで対応している。	排泄パターンの把握に努め、オムツからリハパンに、リハパンから布パンツに移行できた方もおり、利用者個々の状況に応じて話し合い、改善に繋げています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、体操や飲食物で、場合によっては主治医へ相談の元便秘にならない様に、下剤で調整等している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回は入浴できる様にしている。又、体調や気持ちの部分を配慮しながら入浴のお誘いをしている。	車椅子の利用者も浴槽に浸かって入浴できしており、安全に配慮しながら支援しています。汚染時にも随時対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリがつくよう、日中の体操や会話に力を入れている。又、居眠りや浮腫の状態に応じて横になって頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のお薬の内容、目的や副作用を把握し、日々の様子から変化に気付ける様しっかりと観察している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話を通して生活歴も含め、楽しみ事や苦手な事を汲み取り、その方に合った支援内容を考えている。季節ごとに、食べたい物・行きたい場所を伺っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中から、希望・要望を聞き取り、なるべく叶えられるように実施している。簡単に行ける様な場所じゃなくても計画を立て、行事としてご家族様との時間も作れる様に支援している。	外出や外食で気分転換が図られ、笑顔が見られることから本人の希望にも可能な限り応えられるよう努めています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や受診時、買い物へ出掛けた際は、付き添いながら、なるべく自分で支払って頂く様支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」「手紙を書きたい」という声が出た際は、都度要望通り対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、掲示物を変え温度・湿度は小まめにチェックし、換気を行っている。掃除を通して会話等で、コミュニケーションを図っている。	利用者の行動や状況に合わせた環境づくりをしています。冬場の乾燥対策として、危険のないよう時間帯を見ながら入浴後の浴室を開放しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士、会話が出来る様に食卓席の配置を考えている。又、所々に一人掛けソファを設置し自由に座れる様にしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リロケーションダメージにならない様、使い慣れた物を準備して頂き、配置も家に居る時と同じように設置している。場合によっては、仏壇も置いたりしてストレスの軽減に努めている。	在宅時からの習慣で床に布団を敷いて休む方もおり、それぞれの利用者が自分の生活の場として過ごせるよう支援しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じて、レクリエーションや軽作業を行って頂いている。別々というよりは、皆で楽しみたいとの思いから、例えば合唱だと歌う方、歌えない方は職員と一緒に手拍子という方法で参加して頂いている。		